

飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』

第 54 回 日本とフランス、どっち！～時間の使い方から国民性を探る

今回は「ラフ」なテーマ。「時間」に関して面白いデータがあるのでご紹介したい。客観性をもたせるため、ヴィトンだ、ディオールだ、ロマネコンティだと、日本女性憧れの「フランス」との比較をしながら進めてみたい。

総務省の「社会生活基本調査」(01年10月)から、**睡眠時間**。日本人男性は7時間49分、女性の場合7時間35分と、女性のほうが僅かに短いようである。フランス人男性の睡眠時間は8時間23分、女性が8時間37分である。フランス人は女性のほうが睡眠時間は長いし、日本人女性に比べると、1時間以上余計に寝ているのも、いかにもフランスらしいかもしれない。ムッシュ、マドモアゼルは、まず、よく寝る国民である。

日本人の、仕事をもっている夫の家事や介護、育児、買い物といった**家事関連時間**は、1日平均28分である。仕事をもっていない夫の場合は1時間13分となっている。10年前と比べそれぞれ増えており、その分だけ妻の家事時間が減っている。仕事をもっている妻で7分、持っていない妻は32分も減っている。フランスの場合、仕事をもっている夫の家事時間は1日平均1時間59分、もっていない夫は2時間55分と、これはもう、全く比較にならない、雲泥の差である。ムッシュの基本は、家庭にあり...ということか。

「働き過ぎ」と世界中のジャパンバッシングを受けてきた日本人の**年間労働時間**、02年はアメリカ(1,986時間)、イギリス(1,902時間)をも下回り、1,837期間である。過去最高だった60年の2,432時間に比べ、595時間、24%もの減少を実現した。バッシングに弱い、素直(?)な日本人で、ILOからでも褒めてもらいたいくらい。が、日本にあればほどバッシングしたフランスは、まだまだしたたか...?1,589時間。なかなか、働こうとしないのは、見事というか、^{さすが}流石である。(厚生労働省「毎月勤労統計調査」)

日本人勤労者、**1人平均年間休日総数**は112.7日、フランスは140日と、アメリカの127日に比べても、先進国ではズバ抜けて多い。(厚生労働省「毎月勤労統計調査」より)

働かないで豊かな生活が出来るのは、社会保障の充実度の違い。当然その財政負担である**国民負担率**(租税負担+社会保障負担)に差が出てくる。日本が約38%に対し、フランスは約65%の高負担を国民は担っている(国税庁01年度調べ)。結果、**1人当たりの国民所得**は、アメリカ31,222米ドル、日本24,038米ドル、そしてフランスは19,105米ドルとなっているが、フランス人はこれでいいのかもしれない。(01、「国民経済計算年報」)

「日本とフランス、どっち！」なんてバラエティTV番組があるが、歴史と文化、国民性や民族、宗教、風土、環境、あらゆる「違い」の中で、国民が自ら選択、決断し、それを政治に委ね、かつ見極めていくものである。たまにはこんなコラムをちよいと一言。